

熱中症対策に資する現場管理費の補正について（試行）

1. 用語の定義

(1) 真夏日

日最高気温が30℃以上または暑さ指数（WBGT）が25℃以上の日をいう。

ただし、夜間工事の場合は作業時間帯の最高気温が30℃以上の場合とする。

(2) 工期

工事の始期から工事の終期（受発注者間の協議により定めた日）までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日、後片付け期間の合計をいう。

なお、年末年始6日間、夏季休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。

(3) 真夏日率

以下の式により算出された率をいう。

$$\text{真夏日率} = \frac{\text{工期中の真夏日}}{\text{工期}} \quad \text{小数第2位止め（3位四捨五入）}$$

2. 対象工事等

主たる工種が屋外作業である西宮市所管の土木工事（単価契約を除く。）並びに機械設備工事（建築設備工事を除く。）を対象とする。

3. 積算方法等

受注者より提出された計測結果資料(参考参照)をもとに、真夏日率を現場管理費率に加算する。なお、補正は変更契約において行う。

(1) 補正方法

$$\text{補正值（\%）} = \frac{\text{真夏日率} \times 1.2}{\text{}} \quad \text{小数第2位止め（3位四捨五入）}$$

(2) 現場管理費

対象純工事費 × ((現場管理費率 × 補正係数※) + 補正值)

※補正係数：地域補正等

なお、「緊急工事の場合」と重複する場合においても最高2%とする。

(緊急工事とは、昼夜間連続作業が前提となる工事で公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法施行令による応急工事とする。)

4. 気温の計測方法等

(1) 計測方法

工事着手前に受注者より提出される施工計画書に、熱中症対策の内容並びに工事期間中における気温の計測方法及び計測結果の報告方法を記載する。

使用する観測所は神戸地方気象台（神戸市中央区脇浜海岸通）とし、気象庁の気温または環境省が公表している暑さ指数（WBGT）を用いることを標準とする。

なお、WBGTを用いる場合は、WBGTが25℃以上となる日を真夏日と見なす。

(2) 計測結果の報告

受注者は、施工計画書に基づき、計測結果の資料を提出する。（「真夏日算定表」参照）

5. 既契約工事における変更

(1) 気温の計測期間

本通達日以降に受発注者協議により「基準日」を定め、当該基準日から工期の終期までの期間のうち、真夏日にあたる日数を計測する。

なお、計測方法等については、「4. 気温の計測方法等」による。

(2) 積算方法等

既契約工事における真夏日率の算出方法は、以下の式による。

真夏日率 = 基準日から工期の終期までの真夏日 ÷ 工期

その他の積算方法は、「3. 積算方法等」による。

6. 施工箇所点在型への適用

施工箇所点在型工事については、点在する箇所の全体工期中の真夏日日数により補正を行う。

7. 週休2日制の経費補正を行う場合の適用

週休2日制の補正と同時に熱中症対策に資する現場管理費率の補正を行う場合は、熱中症対策による補正值加算後に週休2日制の補正係数を乗じる。

現場管理費 = 対象純工事費 × {(現場管理費率 × 補正係数) + 熱中症補正值} × 週休2日制の補正係数

8. 対象工事である旨等の明示

熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行工事の対象とし、日最高気温の状況に応じた現場管理費の補正を行う対象工事である旨等を特記仕様書等に明示する。

9. 適用

令和2年8月1日以降に入札公告する工事とし、受注者が現場管理費の補正を希望した場合に適用する。

なお、8月1日より前に公告した工事についても、受注者が現場管理費の補正を希望した場合に、本通達日以降に受発注者協議し、次回変更契約時点において特記仕様書へ追記を行うことで適用できる。

また、当面の間、新型コロナウイルス対策に伴う熱中症予防にあたっては真夏日を「日最高気温または夜間工事の場合は作業時間帯の最高気温が28℃以上の日」と読み替えて対応する。